

〔延喜式五齋宮〕月料小月物別減廿分之二

鏡形二百口

〔延喜式三十五大炊〕園韓神祭料夏冬亦同

鏡形六十口

大原野祭料春冬亦同

鏡形百廿五口

椀屋

〔渡世身持談義三〕身代堅地の椀屋も今は損の上塗

今から大掛な思付を止にして、其儘親の代から仕續きたる、昔の椀屋をたまかにして見んと、本心に立歸り、鳴瀧の姨に預け置たる、百兩の金を取戻して元手とし、今より家を堅地の椀屋を、地道にして行んと、上分別を出し、略

〔諸國落首咄二〕常陸にも有前鬼坊

常州筑波と云所に、菅野道三といへる禪門ありしが、常々其人の異名を前鬼といへり、即ち其借屋に菊屋の重左衛門とて、椀を商へる人ありしが、有時火事に逢ひて、諸道具著類盡く焼て、漸々我身計立離しに、所の人よめり、

五器ひとつ得出さぬ火事に大峰や前鬼が借屋かけ出にけり

椀買

〔今様職人盡歌合上〕ふるわんかひ

古椀のかけはなれしも末のかさあひなばまたもぬるよありなん

その、ちは日をふる椀のかひもなくかさねてあはぬ事のくやしさ

常陸水戸 東舎春俊

青梅眞丸

羽州庄内 兩見舎喜丸